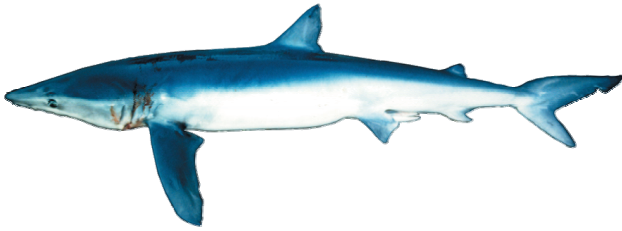


ヨシキリザメ 全水域

Blue Shark, *Prionace glauca*



管理・関係機関

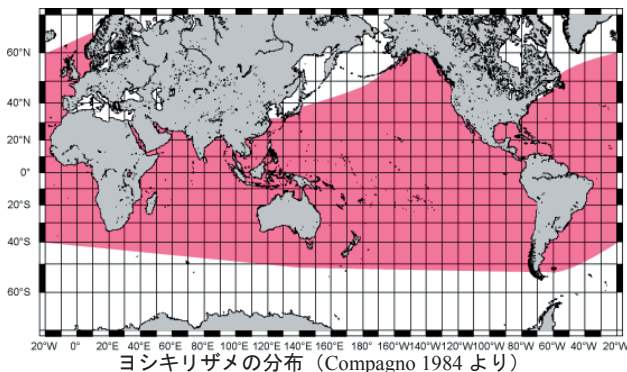
大西洋まぐろ類保存国際委員会 (ICCAT)
 みなみまぐろ保存委員会 (CCSBT)
 全米熱帯まぐろ類委員会 (IATTC)
 インド洋まぐろ類委員会 (IOTC)
 中西部太平洋まぐろ類委員会 (WCPFC)

最近一年間の動き

昨年ウルグアイで開かれたデータ準備会合を受け、第2回目のサメ類資源解析会議がICCAT事務局の会議室で開催された。解析結果は前回と同様で、現在の資源量は南北共にMSYが生じる資源量以上のレベルであり、漁獲死亡率もMSYを達成するレベル以下であると示された。しかし、前回と比べて使用するデータの質量共に向上したとは言え、未だ使用可能なデータが不足しているため多くの仮定に基づいており、明確な結論を出す事は困難であった。

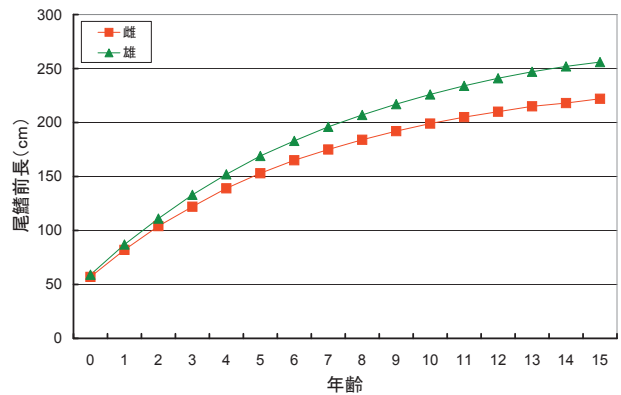
生物学的特性

- 寿命：20歳以上
- 成熟開始年齢：5～6歳
- 繁殖期・繁殖場：初夏、北緯30～40°の海域
- 索餌期・索餌場：熱帯・温帯域
- 食性：魚類、頭足類
- 捕食者：幼魚は大型さめ類や海産哺乳類、成魚は調査中



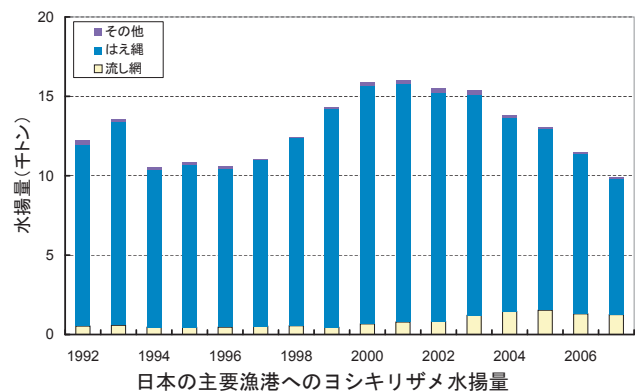
利用・用途

肉はすり身など、鰭はふかひれ、皮は工芸品や医薬・食品原料、脊椎骨は医薬・食品原料



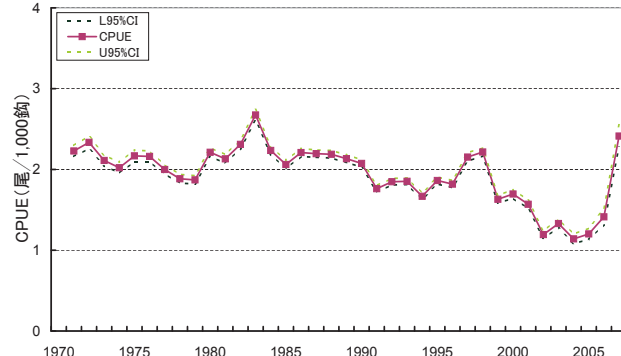
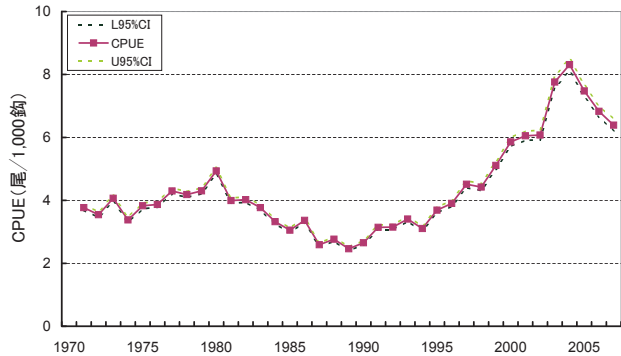
漁業の特徴

本種は全世界の熱帯から温帯にかけて出現し、外洋性さめ類の中で最も資源豊度が高いと考えられ、まぐろはえ縄漁業で多数が混獲される。しかし、主要な漁業対象種ではなく、商品価値が比較的高い沿岸や三陸沖の漁場を除き、遠洋水域で混獲された本種は漁場近くの外国の港で水揚げされるか投棄・放流されている。我が国では宮城県気仙沼港を中心に水揚げが行われ、肉、鰭、脊椎骨、皮が食用や工芸用に利用されている。

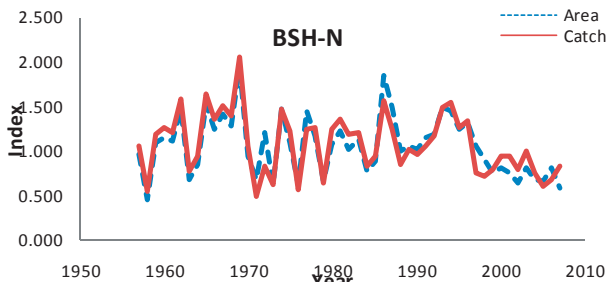


漁業資源の動向

我が国の主要漁港へのまぐろはえ縄漁業等によるさめ類の種別水揚量の調査から、本種のはえ縄漁業等による水揚量は、1992～2007年において9,900～16,000トンで、2001年をピークにやや減少傾向が見られている。さめ類の合計値に占める割合は63～80%であった。



北太平洋(上)および南太平洋(下)におけるヨシキリザメの標準化した CPUE。



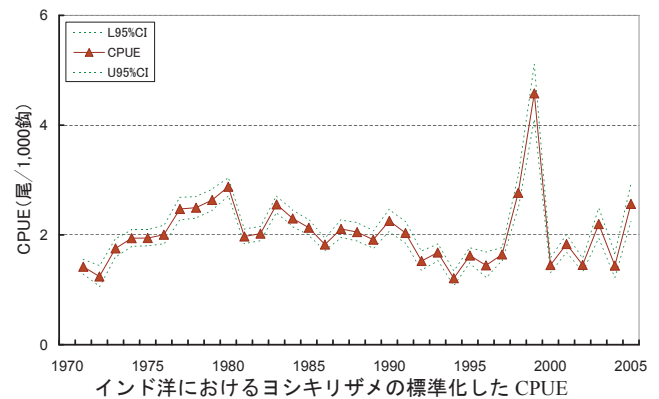
北大西洋におけるヨシキリザメの標準化された CPUE

資源状態

Kleiber et al. (2001) の推定から、北太平洋の資源水準は高位と考えられるが、他の系群では不明である。また、最近30年間のCPUEに顕著な増減傾向は見られず、何れの系群においても長期的な資源動向は横ばいと推測されるが、南北太平洋における近年の動向には注意が必要であろう。

管理方策

資源状態に顕著な変化は観察されず、保護・管理に対する特別な勧告は必要がない。ただし、資源状態を引き続き観察していく必要がある。



インド洋におけるヨシキリザメの標準化した CPUE

資源評価まとめ

- 資源評価はCPUEの経年変化を一般化線形法 (GLM) で標準化して求めた
- 長期的には資源は横ばい

資源管理方策まとめ

- 保護・管理に対する特別な勧告は必要がない
- 資源状態を引き続き観察していく必要がある

ヨシキリザメ(全水域)の資源の現況(要約表)

	北太平洋	南太平洋	北大西洋	南大西洋	インド洋
資源水準	高位	調査中	調査中	調査中	調査中
資源動向	横ばい	横ばい	横ばい	横ばい	横ばい
世界の漁獲量(最近5年間)	調査中	調査中	調査中	調査中	調査中
我が国の漁獲量(最近5年間)	1.0～1.5万トン (水揚げ量) 平均: 1.3万トン	調査中	調査中	調査中	調査中